

大阪インターナショナルチャーチにお越しくござりありがとうございます。
皆さんおわかりのように、私は今日ここにいません。英国で OIC の紹介をしています。
私の故郷の英国南西地域であらゆる集会に招かれています。
そこは、91 歳になる私の母の住む場所でもあります。
英国滞在中には、10 月のリトリートに向けた準備もしていますので、その準備を覚えてお祈りいただければ感謝です。

詩篇 18 篇

- 18:1 彼はこう言った。【主】、わが力。私は、あなたを慕います。
18:2 【主】はわが巖、わがとりで、わが救い主、身を避けるわが岩、わが神。わが盾、わが救いの角、わがやぐら。
18:3 ほめたたえられる方、この【主】を呼び求めると、私は、敵から救われる。
18:4 死の綱は私を取り巻き、滅びの川は、私を恐れさせた。
18:5 よみの綱は私を取り囲み、死のわなは私に立ち向かった。
18:6 私は苦しみの中に【主】を呼び求め、助けを求めてわが神に叫んだ。主はその宮で私の声を聞かれ、御前に助けを求めた私の叫びは、御耳に届いた。
18:7 すると、地はゆるぎ、動いた。また、山々の基も震え、揺れた。主がお怒りになったのだ。
18:8 煙は鼻から立ち上り、その口から出る火はむさぼり食い、炭火は主から燃え上がった。
18:9 主は、天を押し曲げて降りて来られた。暗やみをその足の下にして。
18:10 主は、ケルブに乗って飛び、風の翼に乗って飛びかけられた。
18:11 主はやみを隠れ家として、回りに置かれた。その仮庵は雨雲の暗やみ、濃い雲。
18:12 御前の輝きから、密雲を突き抜けて来たもの。それは雹と火の炭。
18:13 【主】は天に雷鳴を響かせ、いと高き方は御声を発せられた。雹、そして、火の炭。
18:14 主は、矢を放って彼らを散らし、すさまじいいなずまで彼らをかき乱された。
18:15 こうして、水の底が現れ、地の基があらわにされた。【主】よ。あなたのとがめ、あなたの鼻の荒いいぶきで。
18:16 主は、いと高き所から御手を伸べて私を捕らえ、私を大水から引き上げられた。
18:17 主は私の強い敵と、私を憎む者とから私を救い出された。彼らは私より強かったから。
18:18 彼らは私のわざわいの日に私に立ち向かった。だが、【主】は私のささえであった。
18:19 主は私を広い所に連れ出し、私を助け出された。主が私を喜びとされたから。
18:20 【主】は私の義にしたがって私に報い、私の手のきよさにしたがって私に償いをされた。
18:21 私は【主】の道を守り、私の神に対して悪を行わなかった。
18:22 主のすべてのさばきは私の前にあり、主のおきてを私は遠ざけなかった。
18:23 私は主の前に全く、私の罪から身を守る。
18:24 【主】は、私の義にしたがって、また、御目の前の私の手のきよさにしたがって私に償いをされた。
18:25 あなたは、恵み深い者には、恵み深く、全き者には、全くあられ、
18:26 きよい者には、きよく、曲がった者には、ねじ曲げる方。
18:27 あなたは、悩む民をこそ救われますが、高ぶる目は低くされます。
18:28 あなたは私のともしびをともしられ、【主】、私の神は、私のやみを照らされます。
18:29 あなたによって私は軍勢に襲いかかり、私の神によって私は城壁を飛び越えます。
18:30 神、その道は完全。【主】のみことばは純粋。主はすべて彼に身を避ける者の盾。
18:31 まことに、【主】のほかになだれが神であろうか。私たちの神を除いて、だれが岩であろうか。
18:32 この神こそ、私に力を帯びさせて私の道を完全にされる。
18:33 彼は私の足を雌鹿のようにし、私を高い所に立たせてくださる。
18:34 戦いのために私の手を鍛え、私の腕を青銅の弓をも引けるようにされる。
18:35 こうしてあなたは、御救いの盾を私に下さいました。あなたの右の手は私をささえ、あなたの謙遜は、私を大きくされます。

18:36 あなたは私を大またで歩かせます。私のくるぶしはよろけませんでした。
18:37 私は、敵を追って、これに追いつき、絶ち滅ぼすまでは引き返しませんでした。
18:38 私が彼らを打ち砕いたため、彼らは立つことができず、私の足もとに倒れました。
18:39 あなたは、戦いのために、私に力を帯びさせ、私に立ち向かう者を私のもとにひれ伏させました。
18:40 また、敵が私に背を見せるようにされたので、私は私を憎む者を滅ぼしました。
18:41 彼らが叫んでも、救う者はなかった。【主】に叫んでも、答えはなかった。
18:42 私は、彼らを風の前のちりのように、打ち砕き、道のどろのように除き去った。
18:43 あなたは、民の争いから、私を助け出し、私を国々のかしらに任ぜられました。私の知らなかった民が私に仕えます。
18:44 彼らは、耳で聞くとすぐ、私の言うことを聞き入れます。外国人らは、私におもねります。
18:45 外国人らはしなえて、彼らのとりでから震えて出て来ます。
18:46 【主】は生きておられる。ほむべきかな。わが岩。あがむべきかな。わが救いの神。
18:47 この神は私のために、復讐する方。神は諸国の民を私のもとに従わせてくださる。
18:48 神は、私の敵から私を助け出される方。まことに、あなたは私に立ち向かう者から私を引き上げ、暴虐の者から私を救い出されます。
18:49 それゆえ、【主】よ。私は、国々の中であなたをほめたたえ、あなたの御名を、ほめ歌います。
18:50 主は、王に救いを増し加え、油そそがれた者、ダビデとそのすえに、とこしえに恵みを施されます。

はじめに

ご存知の方も多いと思いますが、私は生駒山の中腹に住んでいます。ケーブルカーの宝山寺駅の近くです。

気候の良い季節には、よく近所を散歩します。

山道を歩いていると、いろいろなおもしろい場所を見つけます。

山を流れる小川、こじんまりしたカフェやレストラン、生駒の町を一望できる展望スポットなどがあります。

けれども、ひとつ気をつけなければならないことがあります。それは、季節によっては獣や蛇が出ることです。

夏、ちょうど今ごろは蛇に気をつけなければなりません。冬には食べ物を探しに山を下りてくるイノシシや野良犬がいます。

そういう獣に出くわしたら、まだ遠くにいる間に、襲われないよう引き返すか別の道に進むことです。

詩篇 18 篇は、人生の正しい道を歩むよう促します。そして、その正しい道とは敬虔の道であると教えてくれます。

生駒山にも危険があるように、人生にもたくさんの危険があります。

恵みの道を選び、弟子としてイエスに従うなら、人生のわなや危険を避けることができます。

詩篇 18 篇はとても長いので、すべてを網羅することはできませんが、主要なポイントをおさえていきましょう。

この詩篇の歴史的背景は、神がダビデを敵サウル王や敵対するすべての人々から救い出された頃です。

今日はこの詩篇を 3 つにわけてお話ししましょう。

第一部は、詩篇 18 : 1-15、ダビデの危機です。

第二部は、28-50 節、ダビデの召しです。

そして、少し戻って 16-27 節を第三部とします。ダビデの秘訣です。

1. ダビデの危機 (1-19 節)

1-3 節で、ダビデは神への愛と感謝を語ります。

1 節で主への愛を表現した際、ダビデは、深く愛する、いつくしむ、という意味の特別なヘブル語の単語を使っています。

これは、「胎」を指すヘブル語の単語と関連しており、子に対する母親の愛をあらわします。
(イザヤ書 49 : 15)

ダビデは神を深く愛していました。

そして、その愛を神への信仰と希望というかたちであらわしました。

ダビデは神を、「わが巖、わがとりで、わが救い主」と呼びました。

自分の力は神から与えられると言い、神の助けを覚えて神をたたえています。

賛美と感謝をささげた後、ダビデは自分の心のうちを神に打ち明け、自分の置かれた危機的状況について神に伝えます。

ダビデが直面した状況 (4-5 節)

4-5 節で、ダビデは死と向き合ったと神に言います。

4 節には、「滅びの川は、私を恐れさせた。」とあります。

非常に厳しい状況だったようです。

そのような危機的状況の中で、ダビデにはふたつの選択肢がありました。そのような状況に追い込まれたことを神のせいにして神に背を向け逃げるか、助けを求めて神のもとへ行くかです。

幸いにも、ダビデは神に助けを求めることを選びました。

私たちも、クリスチャンかどうかにかかわらず、人生の苦境に立たされたときは、助けを求めて神のもとへ行くのが一番の得策です。神から逃げて、他に助けを求めないでください。

ダビデの祈り (6 節)

6 節には、ダビデが苦しみの中で主を呼び求めたとあります。

神を必死に呼び求めたのです。

すると、神はダビデの叫びを聞かれたので、ダビデは、神がどうにかしてくださると安心しました。

どうしようもない状態で神に助けを呼び求め、神がその叫びに応えて助けてくださったという証を聞くと、とても励まされます。

けれども、もっと励まされるのは、神が祈りに応えてくださったことに感謝して、感謝のしるしに何かをしたという証です。日本でいうお返しの文化のようなものです。

このメッセージを皆さんがご覧になるころ、神のみこころならば、私は故郷の英国南西部デボン州にいるでしょう。今からお話するのは、そこで起こったことです。

昔々、帆船が輸送手段として使われていた時代、英国のプリマスは港町として栄えていました。

このあたりの海は荒れやすく、多くの船が難破しました。

あるとき、一隻の船が海で立ち往生しました。プリマス港を目指していましたが、船長には、もう船が港まで行けないとわかっていました。

それで、船長はどうすることもできずに神に助けを求めました。

船長は神に祈り、もし乗組員全員無事でプリマスまでたどり着かせてくださったら、神の助けへの感謝のしるしとして、望遠鏡から見える最初の陸地に教会を建てると言いました。

神は船も船長も乗組員も救ってくださいます。

船がプリマスの港に向かうと、船長は望遠鏡でその地を見ました。すると、はるか向こうに大きな丘が見えました。

その丘は、プリマスから約 40km ほど離れた国定公園の高台にありました。

そこには家もなく、人は住んでいませんでした。

けれども、船長は言葉通り、その場所に教会を建てました。

現在、そこを訪れると、教会の内部を見学することができます。壁には、今お話した内容を伝える記念の碑が掲げられています。

私たちの神は素晴らしいお方です。人が心から必死に神に向かって叫ぶときに応えてくださるお方です。

ダビデが祈ると、神はその祈りに応えて、神が怒っておられることを知らされました。

2. ダビデの祈りに対する神の応え (7-15 節)

7-18 節には、ダビデの祈りに対する神の恐ろしい応えが記されています。

神は、ダビデがひどい扱いを受けていることを不愉快に思っておられました。

ダビデは、サウル王に追われ、10 年も逃げつづけていました。

神は、裁きを下そうとしておられます。そこには、神の裁きが詳細に描写されています。

7 節には、神がお怒りになったとあります。そして、8 節に、その怒りがあらわされています。その個所をもう一度読みましょう。

7-8 節

18:7 すると、地はゆるぎ、動いた。また、山々の基も震え、揺れた。主がお怒りになったのだ。18:8 煙は鼻から立ち上り、その口から出る火はむさぼり食い、炭火は主から燃え上がった。

私たちの神は、焼き尽くす火です。神が裁きをくだされるとき、その目的を果たすために、どんなことでもおできになります。

ほんの 2 か月前の 6 月 18 日、大阪で大きな地震がありました。何の前触れもなく、突然地面が揺れたのです。

神はこの世界をお造りになったお方で、地震も神の支配にあります。

イエスの再臨のしるしのひとつは、世界各地で起こる地震です。

神は、この地上と人間にいつでも裁きをもたらすことがおできになります。

聖書には、神が罪に対する強力な裁きをくだされた話がたくさん記されています。

最初の大きな裁きは、神が人間の悪を憂い、全地に洪水をもたらされたことでしょう。

創世記 6 : 5-8

6:5 【主】は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。6:6 それで【主】は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。

6:7 そして【主】は仰せられた。「わたしが創造した人を地の面から消し去ろう。人をはじめ、家畜やはうもの、空の鳥に至るまで。わたしは、これらを造ったことを残念に思うからだ。」6:8 しかし、ノアは、【主】の心にながらっていた。

民数記には、一瞬にして神の裁きがくだされた出来事が記録されています。

神が起こされた地割れによって、モーセとアロンに逆らった人たちが飲み込まれました。

その後、250 人が香をたいたことで生きたまま焼かれました。

彼らは、自らを祭司としましたが、神によって召されていないのです。

(民数記 16 : 28-35)

旧約聖書では、神の裁きが一瞬にして起こることもあれば、裁きを下される前に一定期間の猶予を与えられる場合もあります。

神の裁きは旧約聖書だけで起こることだと思っているなら、新約聖書の話も読んでみましょう。

使徒 5 : 1-11

5:1 ところが、アナニヤという人は、妻のサツピラとともにその持ち物を売り、

5:2 妻も承知のうえで、その代金の一部を残しておき、ある部分を持って来て、使徒たちの足もとに置いた。

5:3 そこで、ペテロがこう言った。「アナニヤ。どうしてあなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺いて、地所の代金の一部を自分のために残しておいたのか。

5:4 それはもともとあなたのものであり、売ってからもあなたの自由になったのではないか。なぜこのようなことをたくらんだのか。あなたは人を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。」

5:5 アナニヤはこのことばを聞くと、倒れて息が絶えた。そして、これを聞いたすべての人に、非常な恐れが生じた。

5:6 青年たちは立って、彼を包み、運び出して葬った。

5:7 三時間ほどたって、彼の妻はこの出来事を知らずに入ってきた。

5:8 ペテロは彼女にこう言った。「あなたがたは地所をこの値段で売ったのですか。私に言いなさい。」彼女は「はい。その値段です」と言った。

5:9 そこで、ペテロは彼女に言った。「どうしてあなたがたは心を合わせて、主の御霊を試みたのですか。見なさい、あなたの夫を葬った者たちが、戸口に来ていて、あなたをも運び出します。」

5:10 すると彼女は、たちまちペテロの足もとに倒れ、息が絶えた。入ってきた青年たちは、彼女が死んだのを見て、運び出し、夫のそばに葬った。

5:11 そして、教会全体と、このことを聞いたすべての人たちとに、非常な恐れが生じた。

3. ダビデの召し (28-50 節)

ダビデは苦境の中でも、神の民の統治者として神に選ばれ召されたことをわきまえていました。

その召しをまっとうするために、ダビデは多くの敵に立ち向かいました。

それは簡単なことではありませんでしたが、私たちクリスチャンにとっても、イエスの弟子となるという召しをまっとうすることは簡単ではありません。

ダビデが召しをまっとうするのに役立つ知識について見ていきましょう。

これらのことを知っていれば、私たちが困難に見舞われたときに、信仰生活を助けてくれるでしょう。

a) 神の光は、暗闇の中の助けである。(28 節)

ダビデは、神に心を開くと、神の光が暗闇を照らす明かりのように輝くと語ります。

ヨハネ 8 : 12

8:12 イエスはまた彼らに語って言われた。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」

イエス・キリストとそのみこころに従うなら、いついかなるときも「光」が与えられます。

サタンとそのたくらみに従えば、常に闇がつきまといます。

ダビデはつづいて、その光をどこからいただけるかについて語ります。

30 節

18:30 神、その道は完全。【主】のみことばは純粹。主はすべて彼に身を避ける者の盾。

どんな境遇にいたとしても、神のみことばの教えに従うなら、光と神の守りを得ます。

詩篇 119 : 105

119:105 あなたのみにことばは、私の足のともしび、私の道の光です。

私は牧師として 25 年神に仕えてきました。その前は宣教師でした。

これまでたくさんの人から相談を受けましたが、私は常に、神のみことばがそれについて何と語っているかに目を向けるようアドバイスしてきました。

その人たちが神のみことばに従った場合は、神から知恵を得て問題はいずれ解決しました。

それは、クリスチャンでもノンクリスチャンでも同じでした。

けれども、自分の考えにこだわって、神のみことばの教えを聞き入れようとせず、霊的な暗闇を抱えたままになった人たちは、神に栄光を帰すような結果にはなりませんでした。

今、どんな問題を抱えていても、神のみことばである聖書に神の与えてくださる解決を見出すことができます。
神は私たちをお造りになったお方ですから、私たちにとって何が最善かをご存知です。

b) 神の力は、神の働きを成し遂げさせてくれる。(32-34 節)

32-34 節

18:32 この神こそ、私に力を帯びさせて私の道を完全にされる。

18:33 彼は私の足を雌鹿のようにし、私を高い所に立たせてくださる。

18:34 戦いのために私の手を鍛え、私の腕を青銅の弓をも引けるようにされる。

ダビデは、体力が神ご自身からやってくると証しました。

6月10日には、テッド・レンドル博士を講師にお迎えしました。

目を閉じて聞いていれば、開胸手術から回復したばかりの87歳の高齢者だとはわからないでしょう。

レンドル師が説教を語れるのも、神が与えてくださった力によるのです。

けれども、高齢者でなくても、神の働きをするためには神の力が必要だということはわかります。

数か月前にもお話ししましたが、大切なことなので、改めて言わせてもらいます。

コリント第一 15 : 58

15:58 ですから、私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあってむだでないことを知っているのですから。

主のわざをなすことと、神のために働くことは違います。

誰でも、神のために働くことができます。少なくとも、そう言えます。

けれども、主の働きをなすのは、神の力がみなぎって初めてできることです。

神の助けを求めるなら、神の働きをなす力が神から与えられます。

私は今年の10月で64歳です。ここOICで皆さんに仕えられるのは、神の力のおかげ以外の何物でもありません。

神がご自身の力を与えて、これまでの3年半皆さんに仕えられるようにしてくださいました。

現在、私は英国で私たち夫婦のために祈ってくれている教会や支援者の方々を訪ねています。

英国にいる神の民の祈りと、OICにいる神の民の祈りが、私たちの日本での働きを継続する力を与えてくれます。

ダビデが神に仕えるのを支えたふたつのことは、神のみことばから与えられる神の光と、神の聖霊をとおして与えられる神の力です。

ですから、私たちもイエスの忠実なしもべとなれるよう助けていただくために、神のみことばに心を集中させ、神の聖霊に頼る必要があります。

では、16-27 節に戻って、ダビデの秘訣が何だったかを学びましょう。

4. ダビデの秘訣 (16-27 節)

ダビデはこの個所で、どんな試練や困難も生き抜く秘訣は神と正しい関係にあることだと語ります。

20 節には、「【主】は私の義にしたがって私に報い、私の手のきよさにしたがって私に償いをされた。」とあります。

ダビデのこの発言は重要なので、24 節でも繰り返されています。

ダビデは完璧な人ではありませんでした。私たちも同じです。けれども、ダビデは「神のみこころにかなう人」でした。(サムエル第一 13 : 14)

そして、「羊飼いの心」の持ち主でした。（サムエル第二 24：17）

詩篇 78：70-72

78:70 主はまた、しもべダビデを選び、羊のおりから彼を召し、

78:71 乳を飲ませる雌羊の番から彼を連れて来て、御民ヤコブとご自分のものであるイスラエルを牧するようにされた。

78:72 彼は、正しい心で彼らを牧し、英知の手で彼らを導いた。

ダビデは、きよい心を持つことも汚れた心を持つことも、どういうことか経験していました。ダビデは姦淫の罪を犯した後、自分の罪を悔い改めました。

ダビデが神にささげた悔い改めの祈りは、詩篇 51 篇に記されています。

詩篇 51 篇 10 節で、ダビデは、「神よ。私にきよい心を造り、ゆるがない霊を私のうちに新しくしてください。」と祈りました。

ダビデは、何よりも神の御前にきよい心であることが揺るぎない人生の秘訣であることを知っていました。

神は、ダビデのきよい心ときよい手に報いてくださいました。

25-27 節で、人はまいた種を刈り取るということをダビデは思い出させてくれます。

25 節は、私たちが人にあわれみを示せば、神も私たちにあわれみを示してくださると語ります。

ですから、私たちは人との接し方にとくに気を付けなければなりません。

では、詩篇 18 篇の教えを私たちに適用していきましょう。

今日は、覚えて日常生活で実践すべき教えが 3 つあります。

1. 「日常に感謝する心」をはぐくむ。

ダビデは、10 年もサウル王から追われ迫害されるという経験をしました。サウル王は、神に退けられた王です。

ダビデはそれでも、創造主なる神への感謝と敬意を持ち続けました。

ダビデがそうできるなら、私たちもできるはずです。

10 年ほど前、私は以前奉仕していた英国の教会で聖書の学びと祈禱会を教えていました。参加者は約 10 名でした。

そこで全員に、神に感謝できることをひとつ挙げてくださいますと言いました。

私の近くに座っていた 80 歳くらいの目の不自由な女性は、次のように言いました。

「私の目はほとんど見えませんが、耳が聞こえることを神に感謝しています。」

参加者は静まり返りました。この女性の証によって、信仰の姿勢について刺激を受けたからです。

毎日、神に感謝すべきことがたくさんあります。ですから、日々の祈りに神への感謝を入れてみてはどうでしょう。

2. 神と神のみことばに対して頑なにならないよう心を守る。

クリスチャンでも、つらいことが起これば神と神のみことばに対して心を閉ざしてしまいがちです。

けれども、つらいときにこそ、神のみことばに助けていただき、神の聖霊に力づけていただけるのです。

私たちが苦勞しているとき、それを正直に神に分ち合い、神から力をいただくことを神は望まれます。神が私たちのことを愛しておられるからです。

3. 相手がどこの誰であれ、神の民への接し方は大事である。

サウル王はダビデにひどい仕打ちをしましたが、ダビデはサウル王にひどい仕返しはしませんでした。

あるとき、ダビデにはサウル王を殺せるチャンスがありましたが、そうしませんでした。

サムエル第一 26 : 8-12

26:8 アビシャイはダビデに言った。「神はきょう、あなたの敵をあなたの手に渡されました。どうぞ私に、あの槍で彼を一気に地に刺し殺させてください。二度することはいりません。」

26:9 しかしダビデはアビシャイに言った。「殺してはならない。【主】に油そそがれた方に手を下して、だれが無罪でおられよう。」

26:10 ダビデは言った。「【主】は生きておられる。【主】は、必ず彼を打たれる。彼はその生涯の終わりに死ぬか、戦いに下ったときに滅ぼされるかだ。」

26:11 私が、【主】に油そそがれた方に手を下すなど、【主】の前に絶対にできないことだ。さあ、今は、あの枕もとにある槍と水差しとを取って行くことにしよう。」

26:12 こうしてダビデはサウルの枕もとの槍と水差しとを取り、ふたりは立ち去ったが、だれひとりとしてこれを見た者も、気づいた者も、目をさました者もなかった。【主】が彼らを深い眠りに陥れられたので、みな眠りこけていたからである。

私たちクリスチャンのふるまいは、他のクリスチャンに対しても、ノンクリスチャンに対しても、模範を示すものでなくてはなりません。

感じのよい人に愛をもって接するのは簡単ですが、むずかしい性格や気質の人に同じように接するのは簡単ではありません。

愛しにくい相手を受愛するには、自然を超越した神の力が必要です。

私たちがまだ罪人であったときに、イエス・キリストが私たちのために死んでくださったことを思い出しましょう。

人はみな、私たち自身を含み、神の聖霊による働き的发展途上にあり、未完成の作品です。

今週、これらの真理に思いを巡らし、日常生活で実践しましょう。

神の祝福がありますように。